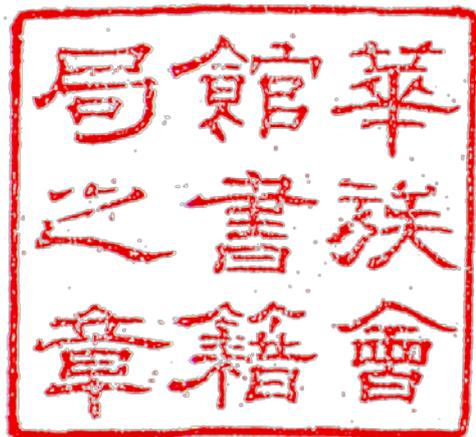




学習院大学図書館

第 268 回 所蔵資料展示

本学所蔵貴重資料 華族会館寄贈資料 展示目錄



はじめに

本学所蔵資料の中でもっとも貴重な資料群に「京都学習院旧蔵書」と「華族会館寄贈資料」があります。前者は弘化 4 年、京都御所に設置された公家の教育機関であった「学習所」(京都学習院)の旧蔵書のうち、本学に寄贈された資料です。後者は明治 10 年、神田錦町に華族の子弟のための学校「華族学校」(現在の学習院)が開設した時に、その設立・運営母体である華族会館が図書館建設を目的に収集していた資料をそのまま華族学校に引き継いだものです。

「学習院」の源流であるそれぞれの時代に、教育に必要不可欠とされた資料が収集・保管され、勉学に供されました。これらの資料は、今も尚、学習院大学図書館に引き継がれ利用されています。

今回の展示では、これらの貴重な資料群のうち、現在デジタル化事業をすすめている「華族会館寄贈資料」を集めました。学習院発展の礎を築いた貴重なコレクションから、その一部を展示します。

学習院の成り立ち — 京都学習院から華族学校へ

弘化4年、公家の教育機関として開講した「学習院」。学習院の名は、嘉永2年、孝明天皇から勅額を下賜され正式名称となった。その後、明治新政府が発足すると、京都学習院は大学寮代と改称され、明治3年、大学寮代が廃止され京都学習院は終わりを告げた。

明治10年、華族の団体である華族会館は東京・神田錦町で華族学校を開設、その開業式が行われた際、明治天皇より校名を「学習院」とする旨の勅諭があり、「学習院」の勅額が下賜された。ここに現在の学習院が創立された。このように、東京における学習院は、「華族学校」として創立されたものであった。

華族会館と学習院

明治2年、版籍奉還に伴い、それまでの公家と武家（大名）を合わせて「華族」と称することになった。明治4年の廃藩置県後にはすべての武家（大名）華族は東京に居住することとなり、公家家族も東京に居住するものが多くなった。同年、明治天皇は近代国家建設のために、華族に「皇室の藩屏」となることを求める勅令を下し、華族はそれに応えるべく、上層華族による「麝香間祇候会議」、中堅華族による「通款社」がそれぞれ結成された。この2団体が合併して明治7年2月、華族を糾合する組織である「華族会館」が創設された。華族会館は華族の共同出資により運営され、学習教育の場として書籍局・講義局・勉学局が置かれた。

明治9年、華族に期待された義務を果たすために、本格的な教育機関を確立することから、華族学校の設立が提議され、明治10年10月、東京・神田錦町に華族の子弟のための学校「学習院」が創設された。

その後、学習院をめぐる環境は変化を続け、明治15年には私立学校から文部卿の監督下に、明治16年からは宮内卿の監督下に置かれ、明治17年からは宮内省所管の官立学校と定められた。また、女子生徒については別に学校を設置する方針が示され、明治18年に華族女学校が創設された。

昭和22年、学習院は官立学校から私立学校に移行し、現在に至っている。華族会館は昭和21年に公布された日本国憲法において華族制度が否定されたため、昭和22年に「霞会館」と改称した。その後、政治、経済、社会、文化等の各方面にわたって国際的な視野から調査研究し、日本固有の伝統的な精神文化を後世に伝え、もって健全な国民の育成及び社会福祉の増進に寄与することを目的とし、公益法人として現在に至っている。

第二次世界大戦後、華族会館が霞会館となり、学習院は私立学校になった後も、霞会館より教育助成金の寄付を受け、現在に至っている。その1つとして、平成26年度より霞会館のご支援をいただき行っている「華族会館寄贈資料デジタル化事業」が挙げられる。当事業では、本学所蔵の華族会館寄贈資料のデジタル化を行い、その画像をインターネット上の「学習院大学デジタルライブラリー」で公開している。

※参照：p.7 学習院大学デジタルライブラリー

華族会館寄贈資料

明治10年、学習院が華族学校として成立し、華族会館書籍局に集められた書籍を蔵書とした学習院図書館（当時は図書課）も設置され、その数は1万冊以上にのぼる。これらの資料は江戸時代の公家や武家でもあった華族からの寄贈書であり、明治天皇や徳川宗家、高松藩主・松平頼聡などから寄贈された資料も見受けられる。当館には、当時の『華族会館寄贈目録』が残されており、それらの調査、また、こうした古典籍を保管する書庫の悉皆調査（蔵書印調査）などから、貴重な資料が存在することが明らかになっている。

特徴的な蔵書印

華族会館寄贈資料には、幾つか特徴的な「蔵書印」が押されている。蔵書印とは、書籍を所蔵していた人物や組織が、自分の持ち物であるという印（しるし）に押していた印鑑である。華族会館寄贈資料には、当然のことながら「華族会館」に関連する蔵書印が押されているほか、上述の通り明治天皇、徳川宗家、松平家などの蔵書印が見える。歴代所有者を示すものとして多くの示唆に富んでおり、学習院に寄贈される前、あるいは、華族会館が収集する前に、何処の誰が所蔵していたものか辿るのも面白い。

明治天皇旧蔵本

当館所蔵資料の中に明治天皇寄贈資料とされているものが2部27冊確認されており、これらの資料には、明治天皇の蔵書印「政餘螢雪」が押印されている。

右図の蔵書印は当館所蔵資料である司馬遷の『史記』（請求記号：旧422/65）に押されているもので、右上、右下、左上、左下の順に「政餘螢雪」と書かれており、君主として政務の合間の寸暇を惜しんで勉学に励まんとする心構えが刻まれている。

来歴としては、明治天皇から徳川宗家、華族会館と渡り、上述の通り学習院に寄贈されたものと見られる。



書誌情報	請求記号	配架場所
日本外史 / 頼山陽著, 頼久太郎編. 頼氏蔵版	旧 412/5	大学図・東庫
史記 / (漢)司馬遷撰, (日本)陸可彦刪定. 積玉圃製本, 寛政十二年刊(文久二年補刻)	旧 422/65	大学図・東庫

徳川宗家旧蔵本

華族会館より寄贈された資料の中で、徳川宗家より寄贈されたとされる資料が10部276冊確認されている。これらの資料には、右図の蔵書印が押印されており、右上から下方に、左上から下方に続けて「養賢閣図書記」と書かれている。

「養賢閣」とは、徳川家茂（江戸幕府14代将軍）が家臣のために江戸城本丸の中奥に設立した学問所である。この「養賢閣」で利用されていた資料に押されていた蔵書印であると推定される。

右図の蔵書印は、蘇軾^{そしよく}撰『東坡全集』から取ったものであるが、他にも以下資料が確認できている。



書誌情報	請求記号	配架場所
常山紀談 / 湯浅元禎編. 江戸 ; 須原屋茂兵衛刊. 弘化三年. 千鐘房・宋栄堂製本	旧 051/37	大学図・東庫
常山紀談 / 湯浅元禎編. 江戸 ; 須原屋茂兵衛刊. 弘化三年. 千鐘房・宋栄堂製本	旧 051/38	大学図・東庫
四書疏註撮大全 / (宋)朱熹章句, (清)胡斐才編, 紀昀鑑定. 乾隆二十八年序. (大学・中庸・論語・孟子)	旧 112/2	大学図・東庫
東坡全集 / (宋)蘇軾撰, 王宗稷撰年譜, (元)脱脱撰本伝, (宋)蘇轍撰墓誌銘. 余衙蔵版	旧 303/33	大学図・東庫
逸史 / (日本)中井積善撰. 大阪 ; 加賀屋善蔵等. 嘉永元年. 懐徳堂蔵版.	旧 412/32	大学図・東庫
資治通鑑綱目 / (宋)朱熹撰. 文政二年. 官板.	旧 422/55	大学図・東庫
続資治通鑑目 / (明)商輅等奉勅撰. 江戸 ; 出雲寺金吾, 天保十三年刊. 官板.	旧 422/56	大学図・東庫
史記 / (漢)司馬遷撰, (劉宋)裴駰集解, (唐)司馬貞索隱・補史, (唐)張守節正義.	旧 422/58	大学図・東庫
史記論文 / (清)吳見思評点. 大坂 ; 敦賀屋九兵衛等刊. 文政十年. 天游园蔵版.	旧 422/68	大学図・東庫
明朝紀事本末 / (清)谷応泰編著, 谷際科, 谷際第訂. 京都 ; 出雲寺文次郎刊. 天保十四年翻刻, 二本松蔵版.	旧 425/20	大学図・東庫

高松松平家旧蔵本

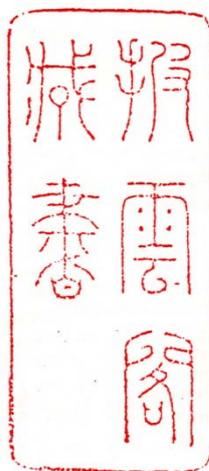
華族会館寄贈資料の中でもっとも大部を占めるのが、この「高松松平家旧蔵本」である。これらは高松藩最後の藩主松平頼聡の旧蔵書と見られ、33部 2,737冊という蔵書数であり、さらに資料の質も非常に高いとされる。ただ、これらの資料がどのような経緯で華族会館に渡ったかは不明である。当館所蔵の松平旧蔵書には、例外なく「従四位松平頼聡精力所集」という蔵書印が押印されている。また、同じく蔵書印として、高松松平家の別邸である「披雲閣」からとった「披雲閣」「披雲閣蔵書」「披雲閣蔵書記」「講道館」などが押印されており、高松藩の旧蔵書がベースになっているとされる。今回展示している資料は、当館が所蔵する松平旧蔵本の一部である。



<従四位松平頼聡精力所集>



<披雲閣>



<披雲閣蔵書>



<披雲閣蔵書記>

(一部抜粋)

書誌情報	請求記号	配架場所
玉海 / (宋)王応麟撰. 乾隆三年補刊序(正徳二年~乾隆五十六年補刊).	旧 030/6	大学図・東庫
性理大全書 / (明)胡広等奉勅撰, 樊献科重訂. 嘉靖三十八年序.	旧 115/2	大学図・東庫
文苑英華 / (宋)李昉等奉勅輯. 隆慶元年胡維新序.	旧 303/2	大学図・東庫

洋書

華族会館寄贈資料の中には、洋書が約 850 冊存在している。当館にある華族会館からの寄贈図書の内容は、本のタイトルが原タイトルではなく日本語に翻訳された形で記載されていたため、後の図書館員がその日本語タイトルを元に所蔵する洋書の中から華族会館寄贈資料を同定した。寄贈目録では、英書(英語で書かれた書物)・

独語（ドイツ語）・仏書（フランス語）に分けて記載があり、内容も歴史書・辞書・法律書・数学書など多岐に渡る本が収められている。なかでも歴史地理、社会科学、自然科学の図書が多く、取り分けて多いのはヨーロッパ史（114冊）と軍事（46冊）に関する資料である。

これらの洋書の大半は徳川宗家から寄贈されたものとされるが、その背景には当時、徳川家側の窓口であった勝海舟、華族会館側の窓口であった尾崎三良（戸田三郎）、浅草「瑞穂屋」で輸入業を営んでいた清水卯三郎らの活躍があったとされている。明治7年に尾崎三良が勝海舟に華族会館の書籍館（図書館）への寄付を依頼し、同年、徳川家が清水卯三郎に1,100円を貸付し、返金させる代わりにその分の洋書1,000冊を調達させ、勝海舟が華族会館へ持参している。本学所蔵資料には尾崎三良のサインが記された寄贈本や瑞穂屋店主清水卯三郎の印が押印されている図書もある。以下、所蔵資料のうち、主だったものを記載する。

書誌情報	請求記号	配架場所
Kleineres Brockhaus'sches Conversations-Lexikon für den Handgebrauch. / F.A.Brockhaus. 2.Aufl. Lpz. 1861-1864. 4v.	030/B783//OF	大学図・貴重書
武者小路実篤の父で子爵・武者小路実世の寄贈本。表紙をめくった遊び紙にサインが入っている。ドイツの百科事典出版社 F.A.Brockhaus (『ブロックハウス百科事典』が有名) の産みの親であるブロックハウスが著した事典である。邦訳として目録には『ブロックハウス氏学芸辞林』と記されている。		
History of the rise and fall of the slave power in America / Henry Wilson. Boston : J.R. Osgood, 1872	326/W686//OF	大学図・東庫
明治政府で首脳を歴任した三条実美に仕え、坂本竜馬とも親交があった尾崎三良（戸田三郎）の寄贈本。戸田が英国留学中にニューヨークに渡った際に購入したとされる。南北戦争当時のアメリカ合衆国の時代を写す書物である。本書には尾崎三良（戸田三郎）のサインが記されている。		
Three years in field hospitals of the Army of the Potomac / Anna Morris Holstein. Philadelphia : Lippincott, 1867.	360/L666//OF	大学図・東庫
アメリカ南北戦争時の野戦病院での看護についての一次資料といわれる。洋書の輸入を皮切りに貿易商として名を馳せた「瑞穂屋」の店主である清水卯三郎が購入したものと考えられており、本書には「瑞穂」の印が押印されている。		
The Waverley novels / Walter Scott. Edinburgh : A. & C. Black, 1871. v.25.	823/SC086//OF	大学図・東庫
ウォルター・スコット（1771年－1832年）。『Waverley（ウェイヴァリー）』という彼の歴史小説の名を冠した25巻ものの個人著作集である。		

おわりに

平成 26 年度から 6 ヶ年の事業で一般社団法人霞会館のご支援をいただき、本学所蔵の「華族会館寄贈資料」のデジタル化を行い、その画像をインターネット上の「学習院大学デジタルライブラリー」で公開しています。令和元年度が最終年度となりますが、既に和書 99%、洋書 96%のデジタル化が終了しています。以下の URL、QR コードでアクセスが可能です。

- 学習院大学デジタルライブラリー (<https://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/>)



<参考文献>

- (1) 学習院大学図書館. 学習院大学図書館蔵所印譜. 巻二. 1991, p.13-14.
- (2) 学習院大学図書館. 学習院大学図書館蔵所印譜. 巻三. 1992, p.7.
- (3) 学習院大学図書館. 学習院大学図書館蔵所印譜. 巻四. 1992, p.10.
- (4) 学習院大学東洋文化研究所編. 知識は東アジアの海を渡った : 学習院大学コレクションの世界. 丸善プラネット, 2010, 176p.
- (5) 学習院大学史料館."華族会館の蔵書". ミュージアムレター. 2007, no.35, p.4-5.
- (6) 学習院大学文学部「学術資料・文書等の管理と有効利用の在り方プロジェクト」作業委員会. 学習院大学所蔵京都学習院旧蔵書目録 華族会館旧蔵和漢図書目録 立花種恭・種忠旧蔵書目録 乃木文庫目録 福羽美静文庫目録. 学習院大学, 2005, 180p.
- (7) 広瀬淳子. "学習院が所蔵する徳川宗家旧蔵書について : 忘れられた華族会館寄贈図書". 人文. 2010, vol.8, p.149-184.
- (8) 広瀬淳子. "学習院が所蔵する華族会館旧蔵洋書について : 忘れられた華族会館寄贈図書その 2". 人文. 2012, vol.10, p.119-152.
- (9) 霞会館華族資料調査委員会編. 会館百四十年の歩み: 創立百四十周年記念. 一般社団法人霞会館, 2014
- (10) 中村丈夫. "ウチの図書館お宝紹介! (第 192 回) 学習院大学図書館 学習院大学図書館所蔵の貴重な資料 : 華族会館寄贈資料". 図書館雑誌 = The Library journal.2019, vol.113 no.5, p.302-303

「本学所蔵貴重資料 華族会館寄贈資料展示目録」
発行日：令和元年 8 月 1 日
発行者：学習院大学図書館
担 当：情報サービス課 橋本 尚美
情報サービス課 岸 利幸

本冊子は大学図書館ホームページでも公開しております
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/exhibition.html>